

# 和's YAMATO

わす やまと

Summer  
2010

## 坂本龍馬の軌跡 第二回

～下関、長崎で歴史の舵を切る～  
薩長同盟の仲介と、亀山社中の結成

## 「西郷隆盛と庄内の人々」

～現代まで続く、徳義を重んじる気風～

酒井家(旧庄内藩主)第十八代当主

酒井忠久氏に聞く

お客様紹介 医療法人大誠会 様(群馬県沼田市)

名水探訪 尾瀬の郷 片品の湧水群・武尊の恵水



武尊牧場。武尊山東麓、標高1500mの高原に広がる牧場で、6月頃からはレンゲツツジの群落が咲きそろう。



花咲の湯(左の写真)の玄関口にある、武尊の恵水の水汲み場



Text/Naoya Kinoshita  
Photo/Norio Ishimori

武尊(ほたか)の恵水は、武尊山の麓にある「花の駅・片品花咲の湯」の、玄関横に位置する湧水です。この水汲み場は、尾瀬の郷片品湧水群が「平成の名水百選」(環境省選定)に選ばれた記念に、花咲の湯近くに設置されました。尾瀬の郷片品湧水群は、水質が非常に優れている上に、村民による植林や山林保護等の環境活動への取り組みが評価され、平成の名水として認定されたことです。

花咲の湯は、県道64号線・奥利根ゆけむり街道の日帰り温泉施設で、文字どおり、美しい花々に囲まれた温泉として親しまれています。

花咲の湯の玄関口横にある武尊の恵水の湧出点は、そこからさらに山の中に入った武尊牧場内にあります。

武尊山に降った雪や雨水が、ブナの原生林に浸透し、長い年月を経て湧水となったと言われています。片品湧水群の中で最大規模のこの湧水は、アルカリ性で水質が柔らかく、大変おいしい水として知られています。

その名水は牧場スキー場の水道水としても利用され、スキーヤーたちの喉をうるおしています。

# 名水探訪

第五回

## 尾瀬の郷 片品の湧水群・武尊の恵水

群馬県利根郡片品村

株式会社ヤマトPR誌  
和's YAMATO 2010 Summer/第5号 2010年7月 発行(夏号)(季刊・年4回発行)  
発行/株式会社ヤマト(総務部) 群馬県前橋市古市町118  
TEL 027-290-1891 FAX 027-290-1896 URL www.yamato-se.co.jp



支店/東京、埼玉、栃木、横浜、千葉、高崎  
営業所/軽井沢、伊勢崎、茨城、太田、栃木市、湘南、東松山、新潟、長野、渋川、川口  
関連会社/大和メンテナンス株式会社 株式会社埼玉ヤマト 株式会社ヤマト・イズミテクノス ヤマト・イー・アール株式会社 大和ビジネスサービス株式会社

わす やまと  
「和's YAMATO」の由来

ヤマトの漢字の和、Water & Airの頭文字を合わせてWA、Sはスタート、ヤマトが発信するメッセージです。

下関、長崎で歴史の舵をきる

薩長同盟の仲介と、  
亀山社中の結成



砲台のレプリカがある壇ノ浦の砲台跡(みもすそ川公園)  
元治1(1864)年8月、長州藩の外国船攻撃を敢行した下関戦争は、長州藩兵とイギリス・フランス・オランダ・アメリカの4カ国連合艦隊との交戦をもって終結した。長州藩士の勇敢で深い戦い方に、列強の軍幹部は驚嘆し、敗者ながらも丁重に接したそうだ。

海軍に大望を託し、  
理想に向かって行動

高知を脱藩した龍馬は、一路、下関へと向かう。文久2(1862)年3月のことだった。まず下関を目指したのは、勤王の志士を支援する商人・白石正二郎を訪ねたものと推察される。正二郎は荷受問屋を営んでいたため旅人からの情報を得やすく、薩摩藩とも深い関わりがあり、倒幕派の動静にも通じていた。

龍馬は正二郎から薩摩の実力を知らされたのか、下関から薩摩半島を目指すか、入国を拒否される。そのため今度は、剣術修行時代の顔なじみである千葉重太郎(龍馬が門人であった千葉道場の師範)を頼り、江戸に向かう。そこに特別な使命や、確固たる目的があったわけではない。一介の脱藩浪人の龍馬にとって、「自分にできることは何か」を模索しながらの旅となった。



江戸に着くと、重太郎の紹介で福井藩主の松平春嶽(まつだいらしゅんがく)に会い、さらに春嶽の計らいで勝海舟を訪ね、その識見に感銘し海舟の門下となる。  
元治1(1864)年5月、勝海舟は幕府の軍艦奉行職に就き、神戸に海軍操練所を開設。龍馬は嬉々として、航海術などを学ぶこととなる。  
姉の乙女宛に書いた手紙の、「日本を今一度洗濯したし候」は有名な一節だが、そこからも龍馬が当時、理想の国家づくりに熱く燃えていたことがうかがえる。



坂本龍馬肖像画 藤田紫香 画(高知県立坂本龍馬記念館蔵)

神戸海軍操練所が閉鎖され、  
薩摩藩の庇護を受ける

元治1(1864)年6月、京都に潜伏中の攘夷派の志士を新撰組が襲う池田屋事件が起こり、それに抗議する大義名分を掲げ、長州藩が京都に向け進軍。しかし薩摩藩が津藩に大敗し、朝敵の汚名を受けることになる(禁門の変)。これをきっかけにして幕府は長州征伐を断行、さらに英米仏蘭の連合艦隊が下関を砲撃し、長州藩は壊滅的な打撃を受けた。

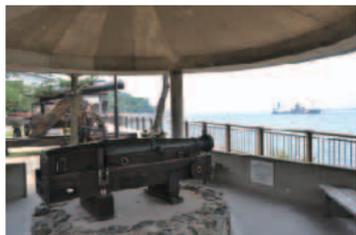
池田屋事件、禁門の変と続く社会の不安な空気は、龍馬たちが学んでいる神戸海軍操練所にも及ぶ。同所の塾生が池田屋の密会に参加しており、新撰組に斬殺されたことが判明。その他にも塾生の中に尊王攘夷派が紛れていると幕府から疑われ、わずか半年で操練所は閉鎖された。勝海舟は軍艦奉行を免職になり、龍馬たち塾生は行き場を失ってしまう。  
しかし、海舟が西郷隆盛に仲介を依頼し、龍馬らは薩摩藩の家老・小松帯刀(こまつたてわき)に預けられた。



関門海峡 壇ノ浦の源平合戦や巖流島の決闘など、歴史の重要な舞台となった関門海峡。1日に潮の流れが4回変わり、大小700隻の船が行き交う。



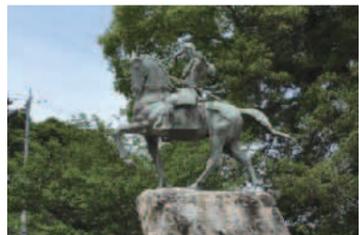
東行庵  
晋作の死後、側室おうのは尼となって墓を弔った。明治17年にはおうのの棲家・東行庵の建物が、山県有朋・伊藤博文・黒田清隆らの寄付によって建てられた。



天保製長州砲(みもすそ川公園)  
関門海峡で行われた攘夷戦で、長州藩の青銅砲は、すべて戦利品として外国に運び去られたが、1984年にフランスから貸与の形で里帰りした。写真は精密な模型で、みもすそ川公園に展示されている。



勝海舟  
江戸・本所の旗本。幕末維新期の開明的な幕臣。戊辰戦争では西郷隆盛との会見で江戸城の無血開城を果たす。(亀山社中資料館蔵)



功山寺の高杉晋作回天義挙(かいてんぎきょ)銅像  
元治1(1864)年、長州藩では幕府恭順派が主導権を握っていたが、晋作はわずか80人で挙兵、藩論を倒幕へと統一した。



みもすそ川公園での、歴史体感紙芝居  
下関戦争や、高杉晋作・坂本龍馬の活躍などを、鐘と太鼓を鳴らしながら熱演する。





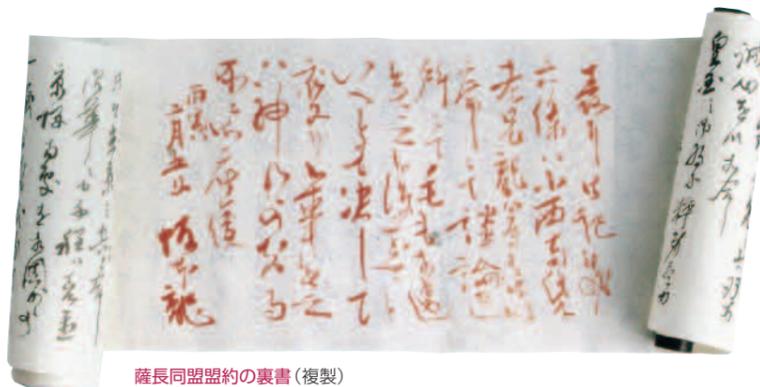
長崎の夜景  
龍馬が初めて長崎の地を踏んだのは、勝海舟の従者の一人としてで、元治1(1864)年のことであった。



西郷隆盛  
薩摩藩は薩長同盟により、幕府との対決姿勢を鮮明にし、明治維新に向け時代が大きく動くこととなる。(亀山社中資料館蔵)



桂小五郎  
吉田松陰に師事し、幕末の攘夷・倒幕運動に先導的な役割を果たした。(亀山社中資料館蔵)



薩長同盟盟約の裏書(複製)  
慶応2年2月 桂小五郎宛。同年、龍馬が立ち会い、薩長同盟が成立したが、慎重な桂は盟約六箇条を書きつづり、龍馬に確認のための裏書を求めた。(高知県立坂本龍馬記念館蔵)



亀山社中記念館周辺の坂道が「龍馬通り」だ。その道の途中に、「龍馬のブーツ像」がある。日本で初めてブーツを履いたのが龍馬だといわれている。

### 長崎に亀山社中を設立し、 念願の海運業を手がける

亀山社中は、薩摩藩や長崎商人の援助を受けて、日本最初の海運商社として慶応1(1865)年間(うるう)5月に設立された。同社は民間の会社(社中)が外国と貿易を行うという画期的な事業体制をとり、龍馬はかねてから思い描いていた海運業を手掛け始める。

スポンサーの薩摩藩からは、隊長の龍馬をはじめとし、社中の二人につき律3兩2分の給料が支給された。これは、当時の書生が1ヵ月間普通の暮らしができるだけの額であったという。社中全員が同額の給料なのは、仲間内で差別をしないという、龍馬の考え方が浸透していたからであろう。亀山社中の事業は、長崎居留地の外国人商人から武器などの物資を購入し、日本各地から注文を受けて、それらを船で運ぶ海運業であった。この貿易活動が、歴史を大転換させる薩長同盟に、大きな役割を果たすことになる。

### 亀山社中 薩摩と長州を急接近させる

長州藩は禁門の変の後、朝敵の汚名を着せられ、幕府から長崎での武器購入を禁止されていた。幕府軍の第二次長州征伐が迫る中で、同藩の武器調達には至上命題であった。当時、幕府と欧米列強から標的にされていた長州藩は、西国の雄藩・薩摩との和解を求め、一方、薩摩藩にとっても、幕府権力の強化は決して望ましいものではなかった。薩摩は反幕府の雄藩連合構築を目指しており、そのためには是が非でも、長州との提携を成し遂げる必要があった。そこで薩摩は、窮地の長州を支援するため、薩摩藩名義で英国人貿易商のクラブから武器を購入。それらが長州藩にわたる流通を、亀山社中が手がけることになる。逆に長州藩から薩摩藩には、飢饉により不足していた米を運ぶ段取りとなり、龍馬は社中を使って、両者の間を取り持つ役割を担った。



龍馬通り  
坂の多い長崎だが、2~3キロ続くハイキングコースとなっている龍馬通りも、階段の多い坂道である。



出島オランダ商館跡  
江戸寛永年間、キリスト教の布教を防ぐため、ポルトガル人を集めて住ませたのが、人口島・出島の始まりである。



亀山社中の跡  
現在は建物を復元した記念館があり、龍馬ゆかりの資料を多数展示している。亀山社中は後に土佐海援隊となる。



幕末の長崎港  
港には数多くの外国船が停泊しており、賑わいを見せていた。(亀山社中資料館蔵)



海援隊士の記念写真  
左から3番目が龍馬。海援隊は西国諸藩のため、運輸・貿易などを行っていた。(亀山社中資料館蔵)

### 薩長同盟実現に 龍馬が果たした役割とは

薩長同盟は慶応2(1866)年10月に成立するが、まさに龍馬の機転や気配りが、二大雄藩を歩み寄らせたともいえる。朝敵の汚名を着せられた長州藩は、薩摩藩に援助を願い出るのは武士として恥ずべき行為である。片や薩摩藩は、困っている長州藩の方から、先に救いを求めているのが筋であると考えていた。

龍馬によって、内々に両藩のためのお膳立てがなされても、どちらも同盟の話を持ち出さず、こう着状態に陥った。そこに龍馬が登場し、木戸孝允(当時は桂小五郎)、西郷隆盛の会談が行われるように取り計らい、ついに同盟が締結された。同盟が結ばれるまで紆余曲折した原因は、いわゆる「武士の体面」であった。

両藩とも倒幕に関する考えは一致し、同盟の内容についても既に中岡慎太郎らの活躍で整い、大きな食い違いがあるわけではなかった。前述の禁門の変などで敵対した両藩を、何とか和解させることが龍馬の最大の目的であった。薩摩と長州双方の面目を保ちながら、歴史的な同盟へと導いた龍馬の功績は大きい。

### 龍馬の深い「人間力」

坂本龍馬が時代の寵児として活躍した幕末は、幕府の威信が低下し、価値観がめまぐるしく、大きく変化する時代であった。こうした変革期に、龍馬は地位も権力も無い中で、自らの志を貫くために、策をめぐらし、行動した。数々の運命的な出会いで成長を遂げ、歴史の舞台で大きな役割を演じることができたのであろう。

世界に通じる海に魅せられ船を操ること、「日本」を建て直し、新しい国をつくること、龍馬の夢は確実に現実化していった。藩を超えて「日本」をとらえた国際感覚、現実を打ち破る想像力と行動力で、夢想をひとつずつ実現した姿に、我々現代人は今なお強く惹かれるのである。



若宮神社境内には、風頭公園に建てられた龍馬像の原型となる、高ヤマトールの像がある。長崎市内在背にした、凛々しい姿を間近に見ることが出来る。



# 西郷隆盛と庄内の人々

現代まで続く、徳義を重んじる気風

## 酒井家(旧庄内藩主)第十八代当主 酒井忠久氏に聞く



### PROFILE

**酒井忠久氏**

(さかい ただひさ)

1946年鶴岡市生まれ。酒井家第18代当主。  
成蹊大学卒業後、松ヶ岡物産(株)を設立し、  
代表取締役役に就任。  
1992年より(財)致道博物館館長。  
松ヶ岡開墾場総長を務める。

庄内酒井家は、酒井忠次、井伊直政、本多忠勝、榊原康政の徳川四天王の筆頭譜代大名で、徳川家康の天下統一に大きな功労があった。

慶長9(1604)年に、関が原の戦いの戦功により上州高崎5万石の城主となり、元和8(1622)年に庄内13万8千石を拝領され、十二代250年近くにわたり庄内地方を治めてきた。幕末になると、庄内藩は幕府側の中心勢力として官軍と激しく戦った後、降伏する。

**酒井氏** 「幕末、新撰組は会津藩の配下で、京都の市中を取り締まる役目をしており、庄内藩も新徴組(しんちようぐみ)という江戸市中取締役の命を受けていました。慶応3(1867)年に、庄内藩は治安維持の目的で江戸の薩摩藩邸の焼き討ちを

主導しましたが、それは薩摩の策略でした」

慶応4(明治元年・1868)年に、薩摩・長州藩を主力とする討幕軍と幕府軍が衝突した鳥羽・伏見の戦いが勃発、幕府軍が敗北した。この戦いは、先の江戸薩摩藩邸焼き討ちが契機となり起こったものであった。庄内藩は同年5月に奥羽越列藩同盟(おううえつれつぱんどうめい)に加盟し、新政府軍と全面的に対決するべく戊辰戦争に参戦するが、劣勢を挽回できず同年9月に降伏することになる。

前述のように、幕末期に反目しあっていた庄内と薩摩であったが、現在、鶴岡と鹿兒島は兄弟都市の盟約を結んでいる。その経緯には、西郷隆盛の人徳が大きく関与していると、酒井氏は語る。

そのため、明治4年初めて西郷に会うこととなった。

昔は西郷の誠実さを敬愛し、庄内復興の方策について相談した。養蚕(ようさん)事業を手掛けるため、三千人もの武士が桑を持つて開墾を手掛けた松ヶ岡開墾場の開設には、西郷も大いに賛同し、支援した。

**酒井氏** 「武士道を重んじる庄内藩は、戊辰戦争の時でも、戦地では節度をもつてふるまい、略奪暴行などは一切せず、敵・味方区別なく亡骸(なきがら)を手厚く葬りました。庄内藩士には、藩校致道館(はんこうちどうかん)での武士道の教えがいきわたっていたのです」

西郷には、日本中を見回しても、庄内ほど礼節を重んじ、国のため義を尽くし働こうという気概をもっている藩はない、と感じられたのであろう。西郷隆盛と庄内との徳と義を基にした交流には、現代にも通じる人として最も根源的なものがある。

**酒井氏** 「庄内藩に対し、官軍のとった措置は、敗れた他の同盟各藩に比べると、きわめて寛大なものでした。それを指示したのが、西郷隆盛(南洲)公だったので。」

降伏した後は、敵も味方もなく、兄弟同様だ。今は外国の脅威に日本が一丸となって立ち向かう時なのだ、というのが西郷さんの考え方でした。

歴史に『もしも』はありませんが、西郷さんが会津の降伏にも関与していたとすれば、そこでも厳しい処分は下されなかったのではないかと思います」

庄内藩で敗戦処理の任にあつたのは、家老の菅実秀(すげさねひで)である。昔は、西郷の配慮による極めて緩やかな処分に感謝し、その謝意を伝える



松ヶ岡開墾場(鶴岡市)の上州鳥村式蚕(かいこ)室  
明治6年より、旧藩士らが養蚕業に着手し、養蚕の先進地である群馬県高崎、前橋方面を視察し、上州鳥村(現群馬県伊勢崎市)の飼育方法を導入することにした。



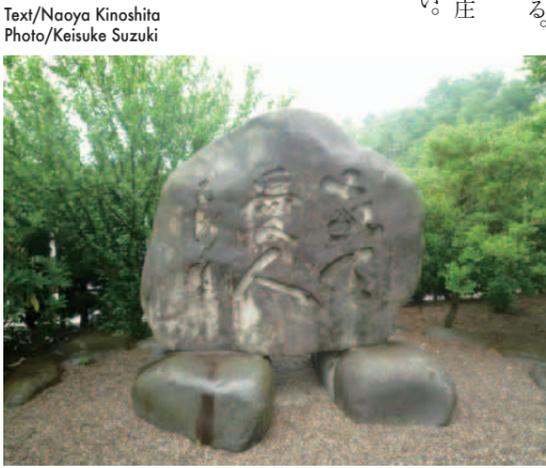
致道博物館内にある藩守の御殿「御隠殿」の前で  
建物内には酒井家に伝わる鎧、兜、調度品等を展示



**南洲翁遺訓**  
明治8年、菅実秀は庄内藩士と共に自ら鹿兒島を訪れ、西郷の教えを受ける。後にその教えを受けた人たちの手記を集めた「南洲翁遺訓」を発刊した。第11代藩主酒井忠篤(ただずみ)公は、数名の旧臣を各地に行脚させ、この冊子を全国に配布した。



上野の西郷隆盛像  
明治22年に恩赦で賊軍の誹り(そしり)を免れた後、酒井家はじめ西郷の崇敬者が発起人となり、銅像が建立された。



南洲神社(酒田市)境内にある「敬天愛人」の石碑  
「天を敬い、人を愛する」が南洲翁の基本的な考え方。天は他人も自分も全く同様に平等に愛してくれるものであるから、自分を愛する心をもってすべての人を愛することが人の道、と教えた。



南洲神社(酒田市)境内にある「徳の交わり」像  
西郷隆盛(南洲)と菅実秀(臥牛)が鹿兒島の西郷屋敷で親睦を深め、「徳の交わり」を誓い合ったことを記念して製作される。

Text/Naoya Kinoshita  
Photo/Keisuke Suzuki

# 良質の医療と 介護を提供



ワーク教室の様子。アートセラピーは脳のリハビリに効果があり、参加者から好評です。

医療法人大誠会様は、主要施設として、  
①内田病院、②介護老人保健施設「大誠苑」、  
③認知症グループホーム「ゆうゆううちだ」  
を運営する総合医療・介護機関です。

内田病院様では、最新の医療介護技術をしち早く取り入れ、常に地域に必要とされる診療を実践しています。

理事長の内田好司先生は、地域の人々が「かかりやすい病院」、「アットホームな病院」、「頼りがいのある病院」づくりを目指しています。また利根沼田地域のリハビリセンターとしてリハビリテーションの分野にも力を注いでいます。



理事長の内田好司先生

「肛門科」においては常に全国トップレベルの診療を採り入れており、東洋医学的な鍼や漢方も利用した「ペインクリニック」が内田病院様の特長です。

内田先生は、日本大腸肛門病学会の指導医として認定されており、同病院も日本東洋医学会から専門医研修施設として認定されています。

リハビリ部門においては、理学療法士8名、作業療法士8名、言語聴覚士4名、音楽療法士1名、臨床美術士1名、歯科衛生士2名と、様々な分野にわたる体制をとっています。



内田病院様の外観

その他 検査部門においては、辛くて敬遠されがちなイメージのある胃カメラなどにも、常に最新の内視鏡を使用。「苦しくない検査」、「笑顔で終わられる快適な検査」を掲げています。

また、もの忘れ外来においては、認知症の方が安心・安全に「その人らしくその人の力で、そのまま暮らせるように」という支援を、医療介護面から確実にバックアップしています。そのために、ご家族からの相談にも、常にきめ細かく対応しています。



日頃のレクリエーションには、音楽療法のメニューが用意されています。



院内は明るく開放的で地域の方々に親しまれています。

大誠会理事長の内田先生は、環境省エネ対策について、下記の文章をお寄せくださいました。

## 大誠会理事長 内田好司様 医療機関としての環境対策

CO<sub>2</sub>の削減は健康に対する観点からみれば、煙草の煙り程度直接的な関連性はないけれど、CO<sub>2</sub>を排出していることは、広い意味での健康的な環境を守っているとはいえない。まして地球規模で今後の事を考えるならば、医療人として関心を寄せるべき問題と受け止めていた。

当会は建設当初から22年が経ち、内部の増改築等については随時必要に応じて対応してきたが、今般冷暖房機の耐用年数が経過し入替が生じた時、株式会社ヤマトさんの勧めがあり、重油方式から夜間蓄熱方式に大幅な改築を行った。

25メートルプールに相当する貯水槽を地下に埋設、夜間電力を使用して運用を始めた。窓もすべてペアガラスに取り替え、冷暖房効果を高める事とした。結果、重油の使用量は激減、CO<sub>2</sub>削減に貢献することができた。もう一歩、給湯ボイラーを入替する事で、ノンオイルの医療環境が実現する予定である。

また、対費用効果は、当初の株式会社ヤマトさんのシミュレーションを上回る結果を出しつつ進行中である(1年を経過していない)。

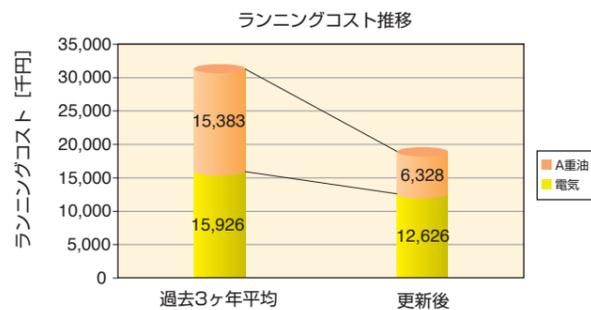
入院入所の方々はもとより、職員に対しても年間を通じて快適な環境を提供する事ができて、管理者としては嬉しい限りである。

## 医療法人大誠会様 省エネルギー改修工事

### 大温度差蓄熱空調システム納入効果検証

#### ランニングコスト

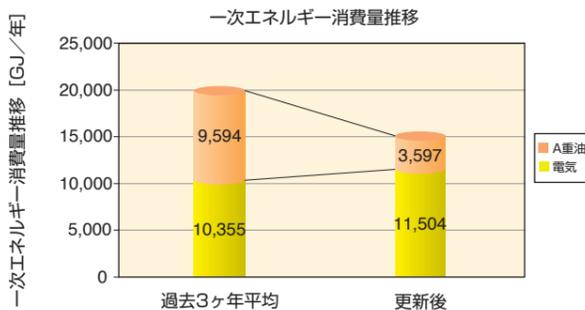
熱源システム更新により、  
過去3ヶ年のランニングコスト平均値より  
およそ39%削減することができました。



※過去3カ年は、2005年度～2007年度の平均値。  
更新後は、2009年11月～2010年10月(2010年6月～10月は想定)とする。

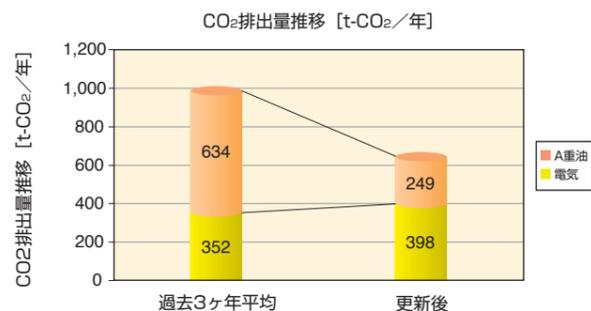
#### 一次エネルギー消費量

熱源システム更新により、  
過去3ヶ年の一次エネルギー消費量の平均値より  
およそ24%削減することができました。



#### CO<sub>2</sub>排出量

熱源システム更新により、  
過去3ヶ年のCO<sub>2</sub>排出量の平均値より  
およそ34%削減することができました。



施設概要	
施設名称	医療法人大誠会 内田病院
所在地	群馬県沼田市久屋原町345-1
建物概要	鉄骨造6階建 延床面積 10,301m <sup>2</sup>
用途	病院 老健施設
竣工	昭和63年9月
更新工事竣工	平成21年12月

システム概要	
建築工事	窓ガラス更新工事 (Low-e複層ガラス)
空調熱源	高効率大温度差蓄熱空調システム 空冷ヒートポンプチラー50馬力×6基
蓄熱槽	温度成層型水蓄熱槽570m <sup>3</sup>
遠隔監視	ヤマトTASKPLUS
その他	空調機は既存利用 (一部更新)